

平成 29 年度事業報告書

東京都目黒区下目黒 4 丁目 1 番 1 号

公益財団法人 目黒寄生虫館

はじめに

当法人は寄生虫学の研究等事業と普及啓発事業を通じて寄生虫学の発展に寄与することを目的としている。当法人の主たる収益は、財産の運用収益によって賄われている。当年度は日経平均株価が大幅に上昇したことが影響し、所有する株価連動型の債券の多くが期限前償還となった。債券類の買い替えに伴って結果的に十分な運用益が得られ、各種の事業活動に役立てることが可能になった。当年度に実施された各事業について、以下の通り報告する。

研究等事業（定款第4条第1号事業）

当法人の研究等事業では、寄生虫の分類形態学を主体とした研究を行っている。その成果は諸学会にて報告を行い、随時論文を発表している。とりわけ近年では遺伝子解析の実験を館内で進めたり、外部研究者と積極的に共同研究を実施したりと、研究活動の広がりが顕著にみられている。

学術資料については、標本、文献、論文別刷や、過去の研究者の残した歴史資料のアーカイブ化が進められている。貴重な資料の管理と活用という点において、今後の研究の発展に貢献するものである。また、20年以上にわたって継続されている目黒区内の公立学校における砂場の寄生虫卵調査は、目黒区教育委員会の委託により行われており、地域貢献活動の一端を成している。研究成果や専門知識を基盤として広く一般に向けて助言・指導を行うなど、多様な観点から専門性の高い事業活動を展開している。

当事業は、科学研究費助成事業の助成を受けた補助事業を除き、法人の自主財源をもって遂行され、活発な研究活動が行われている。

I. 寄生虫学に関する研究・調査活動

1. 寄生虫学に関する研究

A. 論文、その他

1. 小川和夫

- 1) Shirakashi, S., K. Tani, K. Ishimaru, T. Honryo, S. P. Shin, H. Uchida and K. Ogawa (2017): Spatial and temporal changes in the distribution of blood fluke infection in *Nicolea gracilibranchis* (Polychaeta: Terebellidae), the intermediate host for *Cardicola orientalis* (Digenea: Aporocotylidae), at a tuna farming site in Japan. *Journal of Parasitology*, 103 (5), 541-546.

タイヘイヨウクロマグロの住血吸虫 *Cardicola orientalis* の中間宿主フタエラフサゴカイにおける寄生状況を通年調査した。垂直分布については、4 m までの水深から採集されたゴカイに寄生率が高く、季節性については、4月から7月にかけて採集されたゴカイに寄生率が高かった。

- 2) Ogawa, K. and Shengfa Liu (2017): Identification of blood flukes infecting tiger puffer *Takifugu rubripes*. *Fish Pathology*, 52 (3), 131-140.

トラフグに寄生する *Psettarium* 属住血吸虫3種を記載した。そのうち、*P. yamagutii* と *P.*

wakasaense は新種である。

- 3) Fukuda, Y., K. Miyamura, E. Hitaka, K. Kimoto, Y. Sanada, T. Asai and K. Ogawa (2017): Blood fluke infection of Japanese amberjack *Seriola quinqueradiata* in fish farms along the western coastal area of Bungo Channel, Japan, *Fish Pathology*, 52 (4) 191-197.

大分県の養殖ブリにおける住血吸虫感染魚の推移について、10年間に約1万尾の病魚を対象に調査した。病魚の鰓に集積した住血吸虫卵の出現状況から寄生の開始は7月からで、出現に地域差が認められた。

- 4) 小川和夫・白樫 正 (2017): ハダムシ症. *魚病研究*, 52 (4), 186-190.

日本の海産養殖魚の有害寄生虫であるベネデニア亜科単生類、特に *Benedenia seriolae* と *Neobenedenia girellae* について、これまでの研究をまとめた。

2. 巖城 隆

今年度はなし。

3. 脇 司

- 1) Waki, T., M. Takahashi, T. Eki, M. Hiasa, K. Umeda, N. Karakawa and T. Yoshinaga (2018): Impact of *Perkinsus olseni* infection on a wild population of Manila clam *Ruditapes philippinarum* in Ariake Bay, Japan. *Journal of Invertebrate Pathology*, 153, 134-144.

パーキンサス属原虫が宿主貝の天然個体群に及ぼす影響を調べた。

- 2) Waki, T., T. Yoshinaga (in press): Experimental evaluation of the impact of *Perkinsus olseni* on the physiological activities of juvenile Manila clam. *Journal of Shellfish Research*.

パーキンサス属原虫が宿主貝の生理学的活性に及ぼす影響を感染実験で調べた。

- 3) 脇 司・島野智之・浅見崇比呂・宮井卓人・佐々木健志 (2018) 沖縄島から得られた陸貝に寄生するダイダイカタツムリダニ (新称) *Riccardoella reaumuri* Fain & van Goethem, 1986 (胸板ダニ上目: ケダニ目: ヤワスジダニ科) の日本初記録. *沖縄生物学会誌*, 56, 27-31

陸貝に寄生するダイダイカタツムリダニを沖縄産陸貝3種から日本初記録として報告した。

- 4) Waki, T., S. F. Hiruta and S. Shimano (2018): A new species of the genus *Riccardoella* (Acari: Prostigmata: Ereyinetidae) from the land snail *Taupaedusa tau* (Gastropoda: Clausliidae) in Japan. *Zootaxa*, 4402(1), 163-174.

陸貝に寄生するカタツムリダニ属の一種を新種として記載・報告するとともに、宿主個体群での感染状況を報告した。

B. 学会発表

1. 小川和夫

- 1) ブリハダムシ *Benedenia seriolae* の宿主 — 登録標本と新たに採集した標本からの考察. 第77回日本寄生虫学会東日本支部大会、神奈川県相模原市(ユニコムプラザさがみはら)、平成29年11月。

国立科学博物館と目黒寄生虫館に登録されているブリハダムシ標本を調査し、タイプ宿主はヒラ

マサでなく、おそらくカンパチであること、それ以外の天然の宿主はブリのみであること、飼育されたロウニンアジにも寄生例があったことなどを口頭発表した。

- 2) トラフグ属フグに寄生する単生類 *Heterobothrium* の追加種. 第87回日本寄生虫学会大会、東京都新宿区(国立国際医療研究センター)、2018年3月。

既知6種に新たに5種を追加した。遺伝子解析と宿主への寄生様式によって *Heterobothrium* の進化を論じた。

2. 巖城 隆

- 1) 巖城 隆・長谷川英男・松尾加代子・中野隆文: シマヘビの吸虫 *Ochetosoma kansense* について. 第86回日本寄生虫学会大会、北海道札幌市(北海道大学)、2017年5月。

京都府・大阪府で捕獲されたシマヘビから採集された吸虫について形態観察と遺伝子解析により、*Ochetosoma kansense* と同定した。今回の結果はこの吸虫の新宿主・新分布報告となる。その他、この吸虫の科名・属名の決定の経緯と修正についても報告した。

- 2) 金谷麻里杏・日名耕司・巖城 隆・吉野智生・浅川満彦: 西表島産野生鳥類から得られた線虫類以外の蠕虫について. 第23回日本野生動物医学会大会、東京都武蔵野市(日本獣医生命科学大学)、2017年9月。

2014~2016年に沖縄県・西表島にて窓ガラス衝突や交通事故などによって斃死した16種38羽の鳥類死体から得られた蠕虫類のうち条虫類、吸虫類および鉤頭虫類について報告した。

- 3) 巖城 隆: ヒバカリ *Hebius vibakari vibakari* (有鱗目、ナミヘビ科)に寄生した線虫 *Hexametra quadricornis* について. 第77回日本寄生虫学会東日本支部大会、神奈川県相模原市(ユニコムプラザさがみはら)、2017年11月。

東京都・埼玉県で捕獲されたヒバカリから採集された線虫について形態観察を行い、*Hexametra quadricornis* と同定した。今回の例は国内のヒバカリでの寄生の初報告と考えられる。

- 4) 山内麻莉・柳井徳磨・岡本宗裕・巖城 隆・蔭浦志寿香・箕浦千咲: ツシマヤマネコ (*Felis bengalensis euptilura*) の肺における蠕虫の病理学および寄生虫学的特徴. 第1回ASCMアジアのヤマネコ保全ワークショップ(対馬学フォーラム2017 ジョイントイベント)、長崎県対馬市(対馬市交流センター)、2017年12月。

長崎県対馬のツシマヤマネコ (*Felis bengalensis euptilura*)の30症例中19症例の肺に線虫寄生が認められた。線虫は遺伝子解析によれば *Gurltia paralyans* に近縁であった。肺の蠕虫感染に伴う肺機能低下が示唆され、生存に影響を及ぼす要因と推測されたことを報告した。

- 5) 巖城 隆・脇 司・黒瀬奈緒子・熊沢秀雄: ニホンアナグマ *Meles anakuma* に寄生する *Toxocara* 属線虫について. 第87回日本寄生虫学会大会、東京都新宿区(国立国際医療研究センター)、2018年3月。

長野県のニホンアナグマの小腸から *Toxocara* 属線虫を検出した。この線虫の交接刺は非常に長く、既知種に該当するものは見つからない。遺伝子解析を試みたが検体の状態が悪く、残念ながら解析不能であった。

3. 脇 司

- 1) 脇 司・島野智之・蛭田眞平: キセルガイに寄生するカタツムリダニ属の一種について. 日本土壤動物学会第40回記念大会、神奈川県横浜市(横浜国立大学)、2017年5月。

カタツムリダニ属のダニ未記載種の形態分類と、宿主のキセルガイ類における寄生状況について報告した。

- 2) 脇 司・中尾 稔・池澤広美: 陸貝の吸虫の多様性-関東の陸貝を中心として. 第86回日本寄生虫学会大会、北海道札幌市 (北海道大学)、2017年5月。
陸貝から得られる吸虫の多様性に関する研究発表をした。
- 3) 脇 司: 陸貝の寄生虫の研究とその課題. 日本寄生虫分類形態談話会、北海道札幌市 (北海道大学)、2017年5月。
国産陸貝の寄生虫研究の現状と、今後の課題について発表した。
- 4) 脇 司・島野智之: 東京周辺から得られたカタツムリに寄生するダニ. 日本動物分類学会第53回大会、神奈川県横浜市 (海洋開発研究機構横浜研究所)、2017年6月。
東京周辺の陸貝から得られるカタツムリダニ類2種について、分布と寄生状況を発表した。
- 5) 中尾 稔・佐々木瑞希・脇 司: オカモノアラガイの寄生虫、特にロイコクロリディウム属吸虫について. 日本動物学会北海道支部第62回大会、北海道札幌市 (北海道大学)、2017年8月。
北海道で得られたオカモノアラガイから得られた蠕虫類について、分類や寄生状況を発表した。
- 6) 中尾 稔・佐々木瑞希・脇 司・Jason L. Anders・片平浩孝: 北海道の齧歯類を終宿主とするブラキライマ属吸虫の未記載種, その中間宿主の発見. 第63回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会、北海道札幌市 (北海道大学)、2017年10月。
北海道の陸貝から得られた吸虫未記載種の形態と生活史について発表した。
- 7) 脇 司・日野明紀菜・サトウ恵: ナメクジ科陸貝に寄生するカンセンチュウ目線虫と、宿主の分類の問題点. 第77回日本寄生虫学会東日本支部大会. 神奈川県相模原市 (ユニコムプラザさがみはら)、2017年11月。
国内のナメクジ科陸貝から得られた線虫類の形態と、宿主の分類について発表した。
- 8) 脇 司・島野智之・浅見崇比呂・蛭田晋平・中尾 稔・佐々木瑞希: 国内に広く分布するカタツムリダニ属の1種について. 第87回日本寄生虫学会大会、東京都新宿区 (国立国際医療研究センター)、2018年3月。
ダイダイカタツムリダニの国内での分布について発表した。また、本種の形態に地理的変異があることを報告した。

C. 研究助成

1. (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成 29～31 年度 基盤研究(B)

「養殖クロマグロに寄生する住血吸虫の感染予防に向けての基礎研究」

研究代表者 小川和夫 - 研究分担者 脇 司

クロマグロ住血吸虫の中間宿主であるフタエラフサゴカイを生け簀構造物の清掃によって駆除したところ、感染率が著しく低下した。新たな防除法として構造物の清掃が有望である可能性が示された。流水飼育と粉末魚類用飼料により、中間宿主ゴカイを半年以上の飼育が可能となった。また、無感染ゴカイにスポロシストを移植したところ一定の増殖を確認した。

2. (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 平成 28～30 年度 基盤研究(B)

「日米医学協力計画(1965-90年)と JICA によるフィリピンへの医療援助」

研究代表者 飯島 渉[青山学院大学文学部] - 研究分担者 小川和夫

国立感染症研究所所蔵の小宮義孝資料の一部を寄生虫館に移管して整理・保存し、日米医学協力計画における小宮の果たした役割について調査した。また、得られた研究成果を公開す

る方法についても検討した。

2. 寄生虫相データの整理

目黒寄生虫館公式ウェブサイトの中のアーカイブページにて、データの収集と公開を継続している。「日本産哺乳類の寄生蠕虫類リスト」および「鳥類の寄生蠕虫類リスト」はそれぞれ 4,033 件、2,053 件で、全収録数に増加はない。

3. 国立科学博物館附属自然教育園の生物相調査

自然教育園(東京都港区)の生物相調査の一環として、(独)国立科学博物館と共同で、平成 29 年 8 月 8 日、11 月 1 日・2 日に園内の動物(魚類、哺乳類、甲殻類、陸貝類など)を捕獲し、これらの動物の寄生虫を調査した。淡水魚(モツゴ)から単生類 *Bivaginogyrus obscurus* と *Gyrodactylus* sp. および糸虫類幼虫を、哺乳類(ドブネズミ)から線虫類 7 種を、陸貝類 10 種から吸虫類 *Brachylaima* sp. とカタツムリダニ類 *Riccardoella* spp. をそれぞれ検出した。

4. 目黒区内の砂場における寄生虫卵調査

目黒区教育委員会の委託により行われている調査で、当年度は目黒区立の小学校 3 校・中学校 2 校を対象とした。平成 29 年 8 月 4 日と平成 30 年 2 月 8 日(1 校は 2 月 9 日に実施)の 2 回、各施設の砂場とその周辺から砂を採取するとともに、構内の犬・猫の糞便を探索し、それらについて寄生虫卵の有無を調査した。今回の調査では、夏季・冬季とも砂場とその周囲の砂、および構内の猫の糞便から寄生虫卵と考えられるものは検出されなかった。糞便による汚染への注意や手洗いの励行などの留意事項を報告書にまとめ、教育委員会へ提出した。(巖城 隆、脇 司)

II. 学術資料の収集および管理

1. 学術資料の収集と貸出

当法人が所蔵する寄生虫・宿主標本は現在約 60,000 点である。

研究員が研究・展示のために収集した標本に加え、外部研究者からの寄贈標本の整理およびデータベース登録を継続中である。当年度の標本寄贈は 25 件・498 点であった。

外部研究者への標本貸出は 6 件・53 点で、来館した研究者の標本閲覧は 7 件・376 点であった。また、他の博物館の展示協力等として標本 2 件・2 点、映像 1 件・1 点を貸し出した。

当法人が所蔵する寄生虫タイプ標本は平成 30 年 3 月時点で 1,227 種・4,173 点であり、当年度は 13 種・89 点が追加された。これらの詳細は「目黒寄生虫館所蔵タイプ標本一覧」として公式ウェブサイトで公開している。

2. 学術資料の整理

当法人では標本資料以外の図書・逐次刊行物、その他の資料についても収集し、書庫および文献室に保管している。これらは博物館資料としてデータベース登録して、学術資料の拡充を図っている。当年度の資料の閲覧・貸出申請は 34 件・56 点であった。

A. 図書・逐次刊行物

購入または寄贈により、当年度に14冊の図書を新たに登録した。蔵書数は平成30年3月末時点で5,090冊となった。登録した図書の一例を以下に示す。

- ・科学を伝え、社会とつなぐサイエンスコミュニケーション（国立科学博物館、2017）
- ・衛生と近代：ペスト流行にみる東アジアの統治・医療・社会（法政大学出版局、2017）
- ・高木友枝：台湾衛生学の父（北里研究所、2018）

逐次刊行物は寄贈や会員購読により約300種類およそ11,000冊を所蔵している。この中には過去に休刊となったものや購読をとりやめた種類も含まれる。当年度は研究機関・学術団体から46種、博物館等の施設から36種の刊行物を新たに登録した。登録した刊行物の一例を以下に示す。

- ・The Journal of Parasitology Vol. 103 No. 1 - No. 6
- ・Pakistan Journal of Zoology Vol. 49 No. 1- No. 6
- ・有害生物（日本有害生物研究会）創刊号 - 第14号（過去発行分の寄贈）
- ・保健医療科学（国立保健医療科学院）Vol. 66 No. 1 - No. 6
- ・全科協ニュース（全国科学博物館協議会）Vol. 47 No. 1 - No. 6

B. 論文別刷等の整理と電子情報化

書庫に保管する論文別刷等は平成30年3月末時点で約43,000件であった。また、近年は研究者間ではPDFファイル形式での論文等のやり取りが主流となっており、入手したPDFファイル約4,800個を共用サーバー内に保管している。公式ウェブサイトでのこれら別刷等の一覧の公開を検討中である。

C. その他資料の整理

地下書庫には過去の研究者が遺した紙媒体の研究資料を多数所蔵している。大鶴正満博士、山口左仲博士、佐々学博士などの資料は、いずれも当法人に寄贈を受けたものである。これらを劣化しないよう適切な管理のもと後世に残すため、平成25年度から青山学院大学の協力を得て、中性紙保存箱への移し替えや目録作成などの資料整理とアーカイブ化を進めている。当年度は国立感染研究所が所蔵する小宮義孝博士が保存してきた寄生虫病・感染症に関する研究資料16箱について、新たに寄託資料として保管することになった。保管に際してはあらかじめ理事会にて承認された「設備投資の見込み」の通り、エレベーター機械室を改修して書庫スペースを拡充する措置をとった。なお、この改修には科学研究費補助金助成事業で受領した間接経費の一部を使用した。

III. 寄生虫に関する助言および指導、外部研究者との連携協力

来館者による質問は60件、電話、FAX、公式サイトメールフォームで受けた質問等はそれぞれ35件、3件、9件であった。企業から依頼された寄生虫・異物同定は3件であった。

また、当法人で受け入れを許可した研究生2名、外国人大学院生(1名;韓国・忠北国立大学;修士)の研究指導のほか、博士学位論文(1名;タイ・マヒドン大学)、大学の卒業論文(1件;東海大学)の作成に関して指導・助言を行なった。

普及啓発事業(定款第4条第2号事業)

当法人の所有する建物の1階と2階は博物館となっている。平成28年度と比べ大幅に来館者は増加し、寄付金収入も来館者数に比例して増収となった。これらの寄付金は、当法人の事業活動に対する理解と支援の結果であると認識している。

毎年実施している特別展示や刊行物の製作のほか、新規の活動として月1回の「ミニ解説会」開催を始めた。多岐にわたる事業を通じて、当年度も広く一般に向けた寄生虫学の普及啓発活動が行われた。

I. 「目黒寄生虫館」の管理運営事業

1. 開館日数および来館者数

平成29年度の開館日数は256日であった。来館者数は約57,300名であり、1日あたり約224名が訪れた計算となる。これは前年度と比較して約17%の増加といえる。

全来館者のうち、団体・グループ来館者数は150団体、2,642名であった。人数は前年度とほぼ同数で、全体の4.6%にあたる。事前申込みを行う団体はそのうちの約半数で、残り半数は職員が来館時に確認して実態の把握に努めた。件数としては中学校が全体の4割を占め、修学旅行や校外学習に多く利用されていることが窺える。一方で大学や専門学校の件数は全体の2割弱であるが、予約1件に対する見学者数が多く、合計人数は1,000名を超える。その殆どが校外実習で、展示を講義に活用している。その他に、地域歩きやカルチャークラブなど、生涯学習活動の一環で訪れる団体が2割程度を占めた。

館内アンケートは来館者の約3%から回答が得られた。アンケートは必須回答ではなく来館者の実態と同一の比率とは限らないが、展示活動のフィードバックには極めて有効である。関東圏の来館者が7割にのぼるものの、それ以外のほぼ全ての都道府県からも訪れている。また、全回答者のうち2割は外国人来館者で、出身国は約50カ国であった。外国人回答者の比率は前年度報告と同じである。国内外のガイドブックやインターネットサイトで紹介された結果と見受けられ、実に多様な来館者が訪れていることがわかる。

2. 常設展示の更新・追加

常設展示「寄生虫の蠟模型」をリニューアルした。これまで1階と2階に分かれていた蠟模型を2階展示室に並べて展示するとともに、製作者・沼田仁吉の足跡や当時の製作技術が現代において歴史的に再評価されていることを伝えるパネルを新設した。平成30年2月27日の休館日に構築物の取付工事を行ったのち、3月1日より一般公開を開始した。なお、本展示の製作は「(一財)全国科学博物館振興財団 平成29年度科学系博物館活動等助成事業」の助成(46万円)を受けたものである。

他にも、山口左伸博士の寄生虫図版の精密な原図を順次閲覧してもらうため、定期的に入れ替えを実施したり、寄生虫標本や、宿主となる貝類標本を観察しやすいものに交換したり、アニサキス食中毒に関する解説プレートを新たに設置したりと、よりよい展示を目指している。

3. 取材対応

当年度の取材申請は計58件で、このうち43件がメディア掲載ないし放映された。内訳はテレビ20件、ウェブサイト7件、雑誌・フリーペーパー類8件、新聞3件、ラジオ2件、その他3件であった。当年度はアニサキス食中毒の被害やエキノコックスの話題が世間の注目を浴びたことに関連する依頼が多数を占めた。また、8件は海外メディアからの依頼であり、日本を紹介するウェブサイトやテレビ等からの取材を受け付けた。

II. 教育普及活動事業

1. 特別展示

A. 特別展示

1. 「外来生物とともに侵入した寄生虫」(平成 29 年 6 月 8 日～12 月 27 日)

国内で多く見られる外来生物は、ともに持ち込まれる病原体が在来の生物に影響を与えることがある。その侵入経路や危険性について、ネオヘテロボツリウムなど 5 種の寄生虫を例にパネルと標本、写真や動画など用いて解説した。本展示に際しては、滋賀県立大学の浦部美佐子教授の協力を得た。

2. 「100 年前の寄生虫教育 — 藤浪 鑑が講義に使った掛図」(平成 30 年 1 月 13 日～4 月 30 日)

日本住血吸虫を人体から初めて発見した藤浪 鑑博士の資料が京都大学総合博物館に多数所蔵されている。当時の医学寄生虫学の様子を窺い知ることができる貴重な資料であることから、博士が約 100 年前に京都大学医学部の講義に使用していた掛図 9 点の複製を作成し、展示に供した。本展示には、京都大学総合博物館、京都大学医学部資料館、および京都大学の日合 弘名誉教授の協力を得た。

B. 他館の特別展示協力

下関市立しものせき水族館「海響館」(山口県下関市)で平成 29 年 7 月 8 日より 10 月 9 日まで特別企画展「日本上陸 50 周年 はじめてやってきたシーラカンス」が開催され、標本および資料の貸出に協力した。1967 年、日本に初めてシーラカンスが寄贈され、国内の多くの研究者が解剖に携わった。その過程で、当法人創設者の亀谷 了が新種の単生虫を発見した。その際に得られた標本、解剖風景を収めた写真、当時一般公開されたよみうりランド水族館のフィルム等を提供した。

2. 講演会など

A. 特別展示解説会

平成 29 年 9 月 2 日および 9 月 3 日に、特別展示「外来生物とともに侵入した寄生虫」を取り上げた特別展示解説会を開催した。参加費は無料で午前中の 30 分間とし、事前に公式ウェブサイトと館内ポスターで告知して参加者を募った。館長と研究員の 3 名が各自担当したトピックについて掘り下げて説明するもので、両日とも 15 名～30 名が参加して好評裏に終了した。この解説会の成果を活かし、次項のミニ解説会へと活動を繋げた。

B. ミニ解説会

平成 29 年 10 月以降、研究員が交代でテーマを決め、展示室内で解説を行うミニ解説会を毎月 1 回実施した。午前午後 1 回ずつ行う各 10 分間のイベントである。参加費は無料とし、終了後は参加者にアンケートを行い、次の企画に向けた参考としている。各回 30 名～50 名前後、半年間で延べ約 220 名が参加した。解説会の内容は以下の通りである。

平成 29 年 10 月 21 日 「カタツムリの寄生虫のはなし」(脇 司)

平成 29 年 11 月 18 日 「人間に寄生するサナダムシ3種について」(巖城 隆)

平成 29 年 12 月 16 日 「アニサキスについて」(小川和夫)

平成 30 年 1 月 20 日 「カタツムリに寄生するロイコクロリジウム」(脇 司)

平成 30 年 2 月 17 日 「戌年なので、犬糸状虫についてお話しします」(巖城 隆)

平成 30 年 3 月 10 日 「100 年前の寄生虫教育—藤浪 鑑が講義に使った掛図」(小川和夫)

C. 講演依頼の受け入れ

職員による講演等の依頼があった場合には、可能な範囲で受け入れている。講演により寄生虫学に対する関心や理解が深まることが期待される。当年度の主な講演を以下に挙げる。

平成 29 年 7 月 29 日 第 20 回野学校

「寄生虫—その巧妙な生き残り戦略」(巖城 隆)

平成 29 年 8 月 23 日 第 19 回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー

「フグ類の寄生虫について」(小川和夫)

平成 29 年 12 月 23 日 平成 29 年度野生動物救護獣医師協会講習会

「寄生虫のはなし」(巖城 隆)

平成 30 年 2 月 25 日 平成 29 年度千代田区生涯学習 ジュニアカレッジ

「意外と身近な寄生虫～魚の中をのぞいて探してみよう～」(巖城 隆・脇 司)

3. 博物館学芸員実習生の受け入れ

当法人の運営する博物館は博物館法第 2 条に定義される登録博物館である。そのため、博物館法施行規則第 2 条に基づき、博物館学芸員資格取得のための実習生を例年受け入れている。実習日数は水曜日から日曜日の 5 日間とし、バリエーションに富んだプログラムを実施した。寄生虫学の理解に必要な標本の登録や作製、博物館活動に必須な展示物製作や館内管理など、各分野の要素を盛り込んだ。また、期間中には必ず展示にまつわる課題や工夫のアイデアを職員にプレゼンテーションする時間を設けている。総合的かつ運営に則した実態を学生に指導することで博物館の発展に貢献する活動である。当年度は各大学から 1 名ずつ、以下の 8 校の学生が参加した。

東京工芸大学 立教大学 東京農業大学 武蔵野美術大学 聖心女子大学
青山学院大学 首都大学東京 神奈川大学 (受入順)

Ⅲ. 寄生虫学への理解を深める資料の刊行・製作事業

1. 刊行物の製作と頒布

定期刊行物「むしはむしでもはらのむし通信」は平成 29 年 12 月 21 日に第 197 号(B5 版 カラー16 ページ)を発行した。巻頭の読み物は職員 3 名が執筆し、特別展示の内容を詳細に解説する「外来生物とともに侵入した寄生虫」を掲載した。他ページでは展示更新や解説会の記録等の記事を通じて事業活動の報告を行った。発行部数 600 部のうち約 190 部は関係機関・博物館等に配布し、65 部を年度中に一般に向けて販売した。残部は次年度以降も頒布を続けており、平成 24 年度に発行した第 192 号は期中に完売となった。バックナンバーを含めた総頒布数は 348 冊であった。

また、当年度も展示ガイドブック和文版/英文版(B5 版 カラー16 ページ)の有償頒布を行った。年間頒布数は 1,652 部で、前年度の 1.5 倍となった。なお、頒布数の約 13%にあたる 218 部は英文版であった。

2. 教育用標本の頒布

昭和53年、日本寄生虫学会創立50周年記念事業として「教育標本サプライセンター」が発足した。センターの実務を担当していた当法人は、その後も医学系の大学や教育機関等を対象に現在も寄生虫標本の頒布を継続している。これらは講義や実習を通じて多くの学生たちの手にわたり、寄生虫学を理解する一助となっている。当年度は29機関から30件の依頼を受けた。販売数は、寄生虫卵液浸標本156本、スライド標本

190枚であった。在庫の減少が続いていたが、日本寄生虫学会が新規に実施する標本作製支援事業との連携を進め、今後の在庫の確保と頒布に努めていく。

IV. 目黒寄生虫館ミュージアムショップの運営事業

展示室 2 階のミュージアムショップにおいて、前項の刊行物の販売と寄生虫学関連書籍・オリジナルグッズの委託販売を継続した。中にはシャープペンシルをリニューアルし、新たにボールペンの販売を開始した。商品の切り替えによりアイテム数の変動はなく、約 20 種類を展開している。来館者数の増加に比例して売上高も好調であり、来館者の興味の高まりが窺える結果となった。

書籍類は期中に新刊 2 冊が刊行された。「増補版 寄生蟲図鑑 (講談社)」は職員が監修を行った。平成 25 年に発行した初版(飛鳥新社)を更新・改訂したもので、人気を博している。また、「日本のムラージュ 近代医学と模型技術 皮膚病・キノコ・寄生虫 (青弓社)」は、明治期の医学領域で活用された蠟製模型のムラージュの研究成果に関する書籍である。前述した寄生虫の蠟模型について取材・撮影を受けた内容が詳細に紹介されている。書籍の種類は合計で 14 冊、販売冊数は年間 839 冊であった。書籍を通して、館内で得られた知識が持続されることの意義は大きい。

その他実施事項等

I. 理事会・評議員会等の開催

1) 平成 29 年度第 1 回定時理事会開催

開催日時 平成 29 年 6 月 4 日(日) 午後 1 時～3 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 8 名 (総数 8 名) 出席監事数 2 名 (総数 2 名)

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

審議事項 下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 平成 28 年度事業報告書案の承認の件

第 2 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 平成 28 年度収支決算書案の承認の件

第 3 号議案 内閣府への定期提出書類の承認の件

第 4 号議案 定款の改正案の評議員会への提出の件

第 5 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改正案の評議員会への提出の件

第 6 号議案 評議員の任期満了に伴う評議員候補者の評議員会への提出の件

第 7 号議案 定時評議員会の日時及び目的である事項等の件

2) 平成 29 年度第 1 回定時評議員会開催

開催日時 平成 29 年 6 月 25 日(日) 午後 1 時～3 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席評議員数 5 名 (総数 7 名)

他 出席役員 5名 (理事長・常務理事 2名・監事 1名)

報告事項 平成 29 年度第 1 回定時理事会の開催報告

審議事項 下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 平成 28 年度事業報告書案の承認の件

第 2 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館 平成 28 年度収支決算書案の承認の件

第 3 号議案 定款の改正案の承認の件

第 4 号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改正案の承認の件

第 5 号議案 役員及び評議員の報酬額の承認の件

第 6 号議案 評議員の任期満了に伴う評議員の選任の件

3) 平成 29 年度第 1 回臨時理事会

開催日時 平成 29 年 12 月 10 日(日) 午後 1 時～2 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 7 名 (総数 8 名) 出席監事数 2 名 (総数 2 名)

審議事項 下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 平成 29 年度補正収支予算書(資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を含む)の承認の件

4) 平成 29 年度第 2 回定時理事会開催

開催日時 平成 30 年 3 月 25 日(日) 午後 1 時～2 時

開催場所 目黒寄生虫館 6 階 生涯学習室

出席理事数 8 名 (総数 8 名) 出席監事数 1 名 (総数 2 名)

報告事項 理事長・常務理事による職務の執行状況の報告

審議事項 下案を審議し、可決承認した。

第 1 号議案 公益財団法人目黒寄生虫館平成 30 年度事業計画書案及び収支予算書案(「資金調達及び設備投資の見込み」を記載した書類を含む)の承認の件

第 2 号議案 特定費用準備資金の取崩しの承認の件

II. 省庁および自治体等への届出事項、他

平成 29 年

4 月 1 日 「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性について」報告書 内閣官房内閣人事局

5 月 8 日 平成 28 年度競争的資金に係る間接経費執行実績報告書 文部科学省

5 月 22 日 法人税・消費税申告書 目黒税務署

5 月 22 日 法人都道府県民税確定申告 渋谷都税事務所

6 月 14 日 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリスト 文部科学省 (研究公正推進室)

6 月 15 日 消費税の納税義務者でなくなった旨の届出書 目黒税務署

6 月 26 日 一般財団法人変更登記申請(評議員の変更) 東京法務局

6 月 28 日 平成 28 年度事業報告書・収支決算書等の届出書 内閣府

6月28日	公益財団法人目黒寄生虫館定款・役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の変更の届出	内閣府
7月5日	評議員変更の届出	内閣府
7月22日	体制整備等自己評価チェックリスト	文部科学省
8月20日	平成29年度「寄生虫に関する調査研究委託」中間報告書	目黒区教育委員会
平成30年		
2月18日	平成29年度「寄生虫に関する調査研究委託」成績報告書	目黒区教育委員会
3月6日	休日労働・時間外労働に関する協定書	品川労働基準監督署
3月28日	平成30年度事業計画書および収支予算書の届出 その他、各種調査書類等への回答	内閣府 内閣府等

Ⅲ. その他の事項

1. 公式ウェブサイト

公式ウェブサイト(<https://www.kiseichu.org/>)では目黒寄生虫館の事業内容の紹介や開館案内の情報を定期的に発信している。7月9日より「研究員ブログ」を開設し、研究員の活動状況の報告を開始した。その他、情報公開のページでは遅滞なく電子公告を行っている。閲覧者数の1日平均は505名であった。

2. 博物館に隣接する自動販売機について、雑収入を計上した。

附属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。